

S-3 脱温暖化社会に向けた中長期的政策オプションの多面的かつ総合的な評価・予測・立案
手法の確立に関する総合研究プロジェクト

2. 温暖化対策の多面的評価クライテリア設定に関する研究

(2) 低炭素社会に関する国際政治分析研究

早稲田大学 国際教養学院

太田 宏

[要旨] 本研究は、各国の目標検討に使用されたモデルやシナリオを検討した上で、これらに国際政治の中長期シナリオという視点が欠けていることを指摘。「脱温暖化2050研究プロジェクト」で開発したシナリオ等を提示し、併せてシナリオの側面からみた目標検討モデルの評価を行い、通常の経済学系・理工系のシナリオ検討に国際政治学からの考察を加える。これにより、各国の中長期削減シナリオの背景にあるモデルや考え方を明らかにする一方、これらのシナリオ検討には、実際にはシナリオを左右する重要な要素となる国際政治動向が十分考慮されていないことを指摘する。G8で提示された目標のように、政治的フォーラムで合意に至る目標は必ずしも科学的に厳密なものではなく、政治的メッセージ性を重視した目標である。このような目標はたぶんに国際政治動向を反映しているにもかかわらず、国際政治シナリオの背後にある価値観、信念、世界観については、これまで十分に勘案されてきたとはいえない。国際政治変動の側面から目標検討のためにシナリオやモデルのアプローチを評価すると、既存のアプローチは多様な国際協力アプローチを目標検討の前提としていることがわかる。したがって、シナリオ形成の際に国際政治動向シナリオも十分検討の上で作成することが、より頑健なシナリオには求められよう。各種シナリオも、目標検討に使用された国際政治シナリオに整合する形で検討を加える必要がある。政策指向の分野横断的研究の最たるものの一つであるシナリオ研究は、今後より多分野横断型の研究へと発展する必要がある。

[キーワード] 国際政治変動シナリオ、GHG大幅削減、シナリオ評価、中長期目標、低炭素社会

1. はじめに

2007年に開催されたハイリゲンダム G8 サミットでは、参加国首脳が 2050 年までに温室効果ガス(GHG)排出を半減する目標を「真摯に検討する」ことに合意した。安倍前首相による「美しい星 50」(2050 年までに GHG 半減)提言が、この合意形成に一定の役割を果たしたといわれている。しかし、この合意には半減の基準となる時期が明記されておらず、その意味では科学的明確さに欠ける目標である。言うまでもなく、その目標設定の曖昧さゆえに主要国間で合意が可能になった政治目標である。現在、政府、地方自治体、企業など様々なレベルにおいて、低炭素社会へ向かう多種多様な経路が示されている。しかし、本研究では国レベルでの中長期削減目標やシナリオを評価の対象に限定した。このような評価は、通常、定量的なシナリオ分析によって行なわれるが、本研究においてはこれらに加え、国際政治シナリオの側面から定性的な評価を加えた。

2. 研究目的

グローバルな課題としての気候変動政策は、究極的には国際制度設計に左右され、さらに、国際制度設計の有効性や実効性は国際政治動向に左右される。したがって、国際政治分析からの評価に十分耐えられないような中長期目標は、結局、「頑健な(“robust”）」ものにならない。そこで、本研究では、主要国の中長期シナリオを整理しつつ、国際政治の視点から将来の中長期的なGHG削減シナリオを分析することを目的とした。

3. 研究方法

方法論的には、解釈学的方法(hermeneutical method)アプローチを採用し、定量的なシナリオを「理念的」な国際政治動向類型に照らし合わせて、その実現可能性を思惟的に検討することによって、シナリオの強健さ(robustness)を検証する一つの方法の提供を試みた。さらに、科学の世界が中長期的な大幅な温室効果ガス削減を要求するとき、その目標達成を意図する政治には「当為」が必要であり、これはバックキャストिंगの考え方にも通じるものである。

具体的な研究方法は、文献ならびに研究機関の論文研究結果報告に関するネット調査、気候変動条約・議定書締約国会議などでの調査や情報収集であった。

4. 結果・考察

本研究の目的は、実際には長期シナリオを左右する重要な要素となる国際政治動向が十分考慮されていないことを指摘し、理念的に想定されうる国際政治動向の基本的動因を整理することを試みたものである。G8で提示された目標に端的に表れているように、政治的フォーラムで合意に至る目標は、科学的厳密性よりも政治的メッセージ性を重視した目標である。そしてこれらの政治的目標の根拠として、政策担当者は何らかの科学的検討結果を参考にしているということはいえるであろう。しかし、目標達成には多分に国際政治動向が影響を与えることは認識されている一方で、そうした国際政治動向を左右する価値観、信念、世界観を分析の対象に加えた定性的分析が十分に行われてきたとはいえない。本研究では、様々な目標検討のためのシナリオやモデルのアプローチと国際政治変動要因の基底をなす価値観、信念、世界観に基づく国際政治世界の類型化との関連性を探った。現在提起されている主な中長期目標シナリオやモデルの背後にある価値観や世界観などが、どの国際政治類型のものと相対的により類似性が認められるか、という点に関して思惟的検討を加えた。そうすることによって、中長期目標に関する各シナリオやモデルが互いにどのような価値基準や世界観をより重視しているかが明らかになり、その中で採りうる政策オプションの多寡や内容も異なると論じた。その中で、国際協調の世界で多種多様な政策オプションの採用の可能性が高いことを指摘した。

5. 本研究により得られた成果

(1) 科学的意義

現在のシナリオ研究にはこれまで社会科学的な考察は殆ど加味されてこなかった。それは、シナリオ研究実施の際には、経済学系や理工学系の研究者が中心となって行われることが常であり、政治学者や社会学者がこのような研究に参画する機会や体制が整っていなかったことが最大の理由であろう。また政治学・社会学の側でも、その学問的趨勢から、シナリオ分析に関わることを拒絶し、ためらう傾向があったことも事実である。本研究で行ったような国際政治シナリオ分析

は、従来国際政治学の文脈ではほとんど実施されていない類のものであった。政策指向の分野横断的研究の最たるもののひとつであるシナリオ研究は、今後このような分野の研究へと広がりを見せることが求められよう。

(2) 地球環境政策への貢献

今後、さらに本研究を深めつつ、特に、中長期GHG削減目標に対する国際政治からの分析ならびに、国際的な中長期GHG削減目標の評価に参考となる評価基準の最終的作成を目指したい。また、予定されているIGES主催の国際シンポジウム(6月15日開催予定)やEU政策担当者や有識者らとの国際会議(11月24-26日)などへの参加の際に、「低炭素社会への中長期目標シナリオと国際政治」の観点から、国際的な気候変動政策促進に可能な限り貢献していきたいと考えている。

6. 引用文献

本報告書のための引用文献なし。

7. 国際共同研究等の状況

国際共同研究者：Yves Tiberghien, Ph. D., Assistant Professor, University of British Columbia, Department of Political Science, Canada

前年度に引き続き、同共同研究者が中心となって行なっている“Minerva’s Moment”(「ミネルバの瞬間」)というプロジェクトに参加している。同プロジェクト研究成果の出版に向けて、原稿の修正作業中である。

その他国際共同研究等：Paul Harris, Director, Environmental Studies Programme, Professor, Department of Political Science, Lingnan University, Hong Kong

同国際共同研究者の呼びかけによる、アジアの気候変動政治と外交をテーマとした本の出版企画に参加し、“Japan’s Domestic Politics and Global Climate Change Policy”を寄稿した。Environmental Change and Foreign Policy(仮題)として、本年度中に出版される予定である。

8. 研究成果の発表状況

(1) 誌上発表

<論文(査読あり)>

- 1) 太田宏、蟹江憲史、河瀬玲奈：「各国の低炭素社会への中長期目標シナリオと国際政治的考察」、地球環境、12(2)、123-134、2007

<査読付論文に準ずる成果発表>

特に記載すべき事項はない。

<その他誌上発表(査読なし)>

- 1) 太田宏：「欧米の環境ODA：ドイツ、スウェーデン、米国」ODA研究会『主要先進国における海外援助の制度と動向に関する調査』参議院外交防衛委員会調査室委託調査(政府開発援助等に関する特別委員会担当調査室)平成20年3月、104-128、2008

(2) 口頭発表

- 1) 太田宏：「気候安全保障の概念について」文部科学省科学研究費補助金特定領域研究、「持続可能な発展の重層的環境ガバナンス」京都大学、2008

(3) 出願特許

特に記載すべき事項はない。

(4) シンポジウム、セミナーの開催（主催のもの）

特に記載すべき事項はない。

(5) マスコミ等への公表・報道等

特に記載すべき事項はない。

(6) その他

特に記載すべき事項はない。